



まちのわだい ～カメラスケッチ～



ホクレン旗争奪第36回北海道少年軟式野球選手権大会が、8月4日から6日まで札幌市で開かれ、オホーツク代表として出場した訓子府KL球友が準優勝しました。

1回戦で宗谷支部代表に3-0、2回戦で空知支部代表に2-1、準々決勝で渡島支部代表に2-1、準決勝で胆振支部代表に3-2で勝利し、決勝へ駒を進めました。決勝では石狩支部代表に0-8で敗れましたが、選手たちは最後まであきらめず戦い、「訓子府旋風」を巻き起こしました。

大会を振り返ってキャプテンの石井大基さんは「エラーしても下を向かず、笑顔で声を掛け合ってプレーしました。家族や地域の方の応援のおかげで勝ち進むことができました」と笑顔で話していました。

KL球友 全道大会で準優勝



訓中3年 札幌で訓子府をPR



町は、今年も訓子府中学校の3年生48人を「訓子府町ふるさと特別大使」「訓子府町ふるさとPR大使」として8月24日に任命しました。

毎年、修学旅行で実施している地域学習「訓子府町PR体験」を後押しするものです。

今年は、大使に高内宣希さんが、PR委員に河合将生さんが就き、全員で8月30日9時40分から約30分間、札幌駅で手作りのパンフレットやジャガイモ、タマネギ、コーンスープなどの特産物を配布し、訓子府町を大いにPRしました。

くねっぴアート・タウン・プロジェクト

パブリックアートによるまちづくり事業の一環として、武蔵野美術大学彫刻研究室で勤務している松尾ほなみさんと学生などを招いて、彫刻作品（石彫）公開制作（8月6日から29日）や彫刻ワークショップ（17日、18日）、対話型作品鑑賞会（17日）が行われました。

彫刻作品の公開制作では、町の発展を支えた「馬」を制作し、訓子府らしさを表現した作品を作り、彫刻ワークショップでは、参加者それぞれが想像を膨らませて「馬」のテラコッタ（素焼き粘土）を作るなど武蔵野美術大学と連携したアート事業が行われ、文化・芸術のまちづくりを盛り上げました。



彫刻作品（石彫）公開制作



彫刻ワークショップ



対話型作品鑑賞会

姉妹町・津野町へ交換留学

訓子府町の姉妹町・高知県津野町に訓子府町の児童4人が、交換留学生として7月26日から31日まで訪問しました。

訪問したのは、訓小6年の福田夏楓さん、佐藤球菜さん、濱野慎悟さん、居小6年の手塚響規さん。

4人は、出発前は緊張していたものの、受け入れ家庭や通学する小学校の児童とすぐに仲良くなり、交流を深めて帰町しました。



わくわく園



わくわく園・ゆめゆめ館 七夕まつり

わくわく園とゆめゆめ館の七夕まつりが、8月7日にそれぞれわくわく園とゆめゆめ館で行われました。

わくわく園では、七夕の歌をうたったり、スイカ割りなどをし、また、ゆめゆめ館では駄菓子屋やビンゴゲームを行うなど、夏のひとときを楽しみました。

ゆめゆめ館

日出・豊年盆踊り大会

日出地域盆踊りが8月14日に日ノ出地区ふれあいセンターで、豊年盆踊りが15日に町公民館でそれぞれ行われました。

二日間とも雨が降るあいにくの天気のため、屋内での開催となりました。

会場では、大きな太鼓の音が響き渡る中、子どもたちは浴衣やアニメの衣装で一生涯懸命に踊り、大人の衣装盆踊りでは、手作りの衣装などで町内外から参加された方により華やかな踊りが披露されました。

地元の方や帰省している見物客は、訓子府の短い夏を満喫していました。

衣装などで行く夏を惜しむ



日出地域盆踊り



豊年盆踊り